

『学びの多様化学校』について



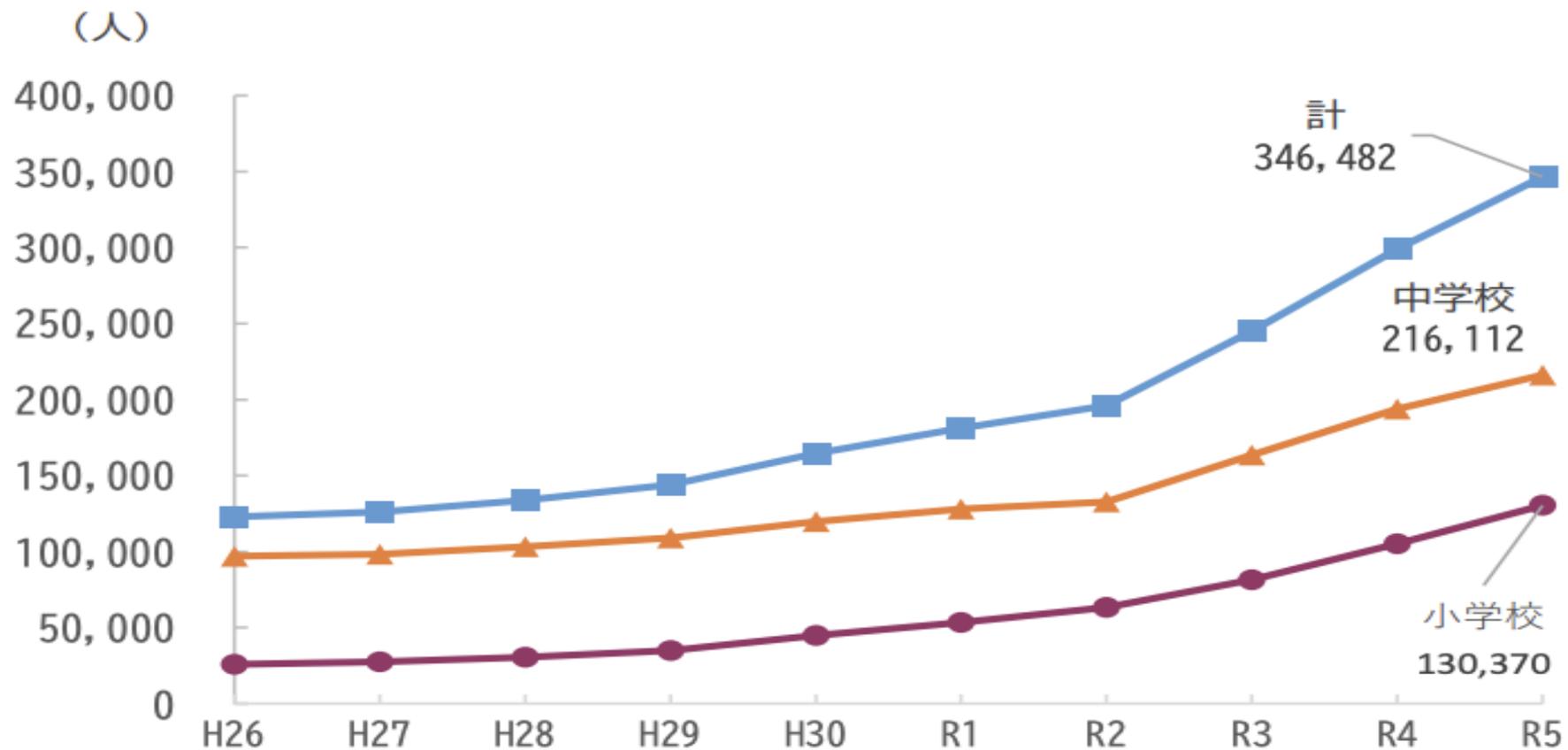
日 時 令和7年6月30日（月）
場 所 釧路市交流プラザさいわい
3階大ホール

釧路市教育委員会
学校教育部 学校指導課
学びの多様化学校開校準備係

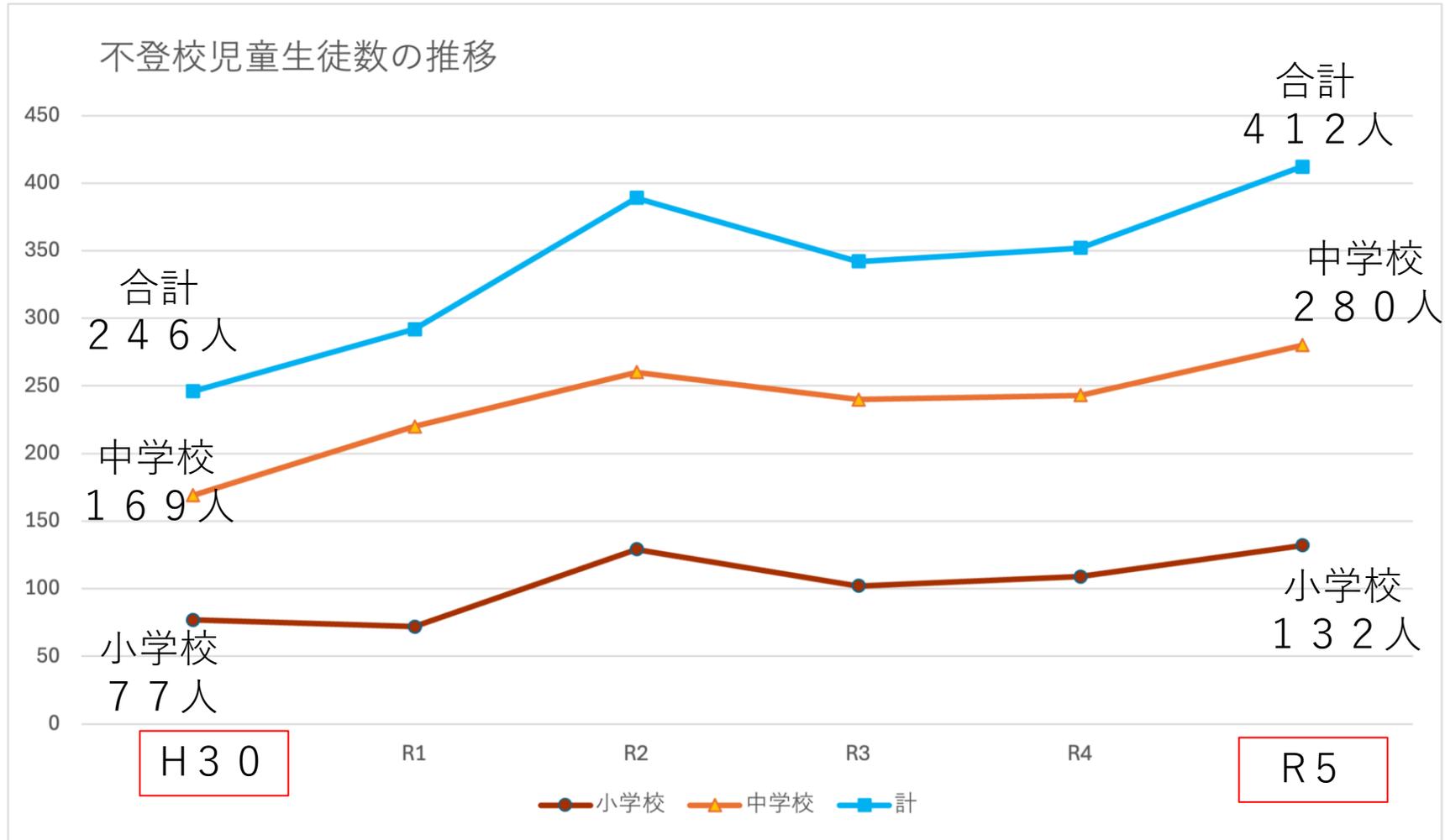
釧路市の不登校の状況とこれまでの対策

不登校児童生徒の実態（全国）

不登校児童生徒数の推移



不登校児童生徒の実態（釧路市）



不登校児童生徒の実態（国と釧路市の対策）

<国>

「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」

1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える ⇒ **学びの多様化学校**
2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する
3. 学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

<釧路市>

○直営事業

- ・校内教育支援センター
- ・教育支援センター（まなびや城山・鳥取）
- ・学びの多様化学校（令和8年4月開校予定）

○連携事業

- ・こども家庭支援センター（ファーストステッププログラム）

「学びの多様化学校」の設置状況

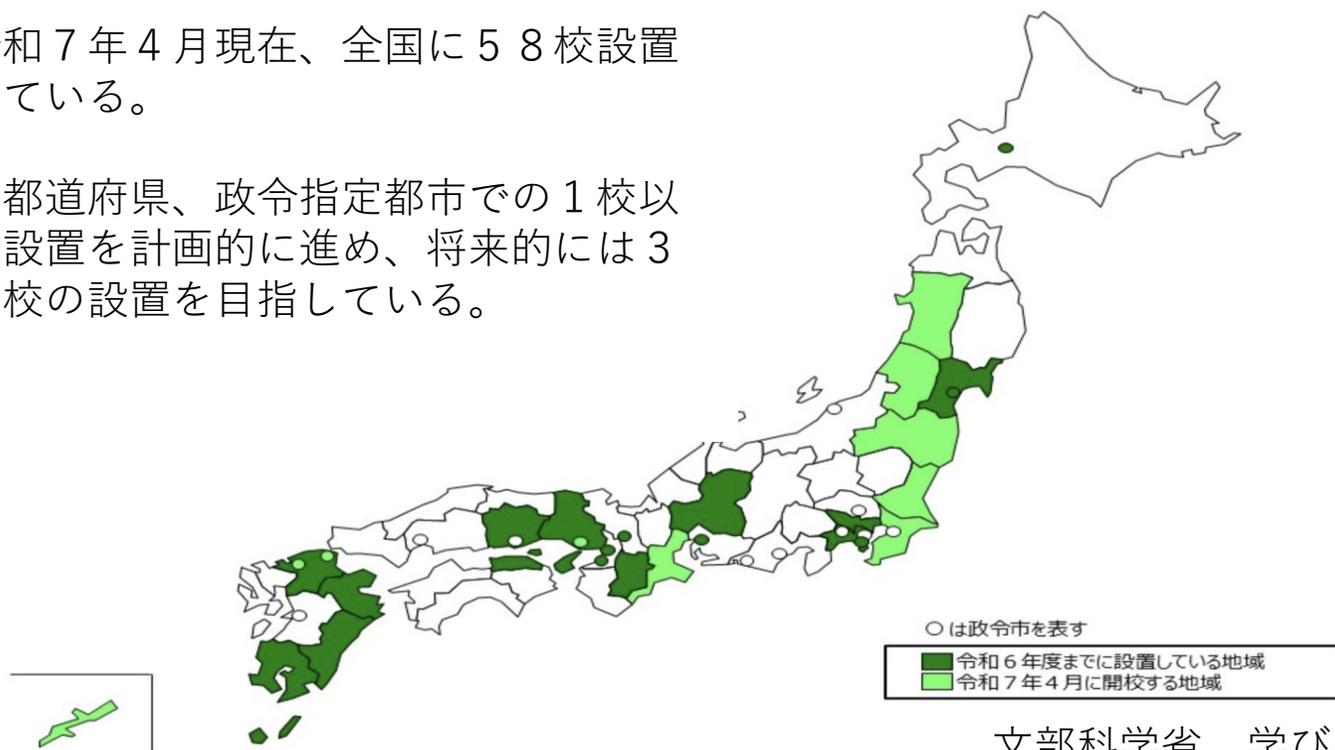
不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する学校

いわゆる不登校特例校

学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)の設置状況(R7)

◇令和7年4月現在、全国に58校設置されている。

◇各都道府県、政令指定都市での1校以上の設置を計画的に進め、将来的には300校の設置を目指している。



◇設置形態◇

○本校型

○分校型

○分教室型

釧路市が目指す学びの多様化学校 ～設置形態と対象児童生徒～

設置形態

令和 8 年度 分校型の学びの多様化学校として開校

本 校：北中学校

場 所：中央小学校の 3 階の一部

生徒数：各学年 15 × 3 学級 計 45 名

※登校：徒歩、バス、JR、保護者送迎

教室 3、相談室、クールダウン室
個別学習スペース、職員室
他は中央小と共用



教職員数

令和 8 年度 分校型の学びの多様化学校として開校

		本校型	分校型	分教室型
管理職	校長	1名	0名	0名
	教頭	1名	1名	0名
教諭	一般教諭	8名	7名	3名
	養護教諭	1名	0名	0名
職員	事務職員	1名	0名	0名

対象となる児童生徒の範囲（文科省の定義）

A 不登校状態である児童生徒

何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。）

B 不登校傾向が見られる児童生徒

Aのような基準に該当しない児童生徒であっても、不登校傾向が見られ、その後不登校になる蓋然性が高いと考えられる児童生徒

対象となる児童生徒の範囲（釧路市の定義）

- （１） 釧路市在住の中学校３学年までの生徒
- （２） 年間３０日以上もしくは、不登校傾向にあると認められる者。（ただし、「病休」や「経済的理由」による者を除く）
- （３） 生徒が本校の特色ある教育課程に対して魅力を感じ、保護者の理解も確認できること。

対象となる児童生徒の範囲（釧路市の想定）

状態5	状態4	状態3		状態2		状態1	状態0
部屋に閉じこもり家族ともほとんど顔を合わせない	家庭内では安定しているが、外出はむずかしい	学校以外の施設への定期参加はできないが、外出はできる	学校以外の施設への定期的参加ができる	保健室、別室登校、欠席が増えている		遅刻・欠席がしばしばある 保健室通いが多い	ほぼ平常に登校できる
<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど自室から出ることがない ・生活リズムの乱れが大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・家での落ち着いた生活 ・家族と係ることが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や買物等には出かけることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の学びの場に定期的に通うことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・週3日以上欠席 ・保健室、別室登校が週の半数以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1～2日の欠席 ・遅刻や早退が週の半分以上 ・保健室、別室が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1～2日の欠席 ・遅刻や早退が週の半分 ・保健室、別室を時々利用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的負担あり ・登校しぶり
外出できない		外出できる					

校内教育支援センター

釧路市教育支援センター（まなびや）

学びの多様化学校

釧路こども家庭支援センター

協議いただきたい事項

- ① スクールビジョン
- ② 特別の教育課程の編成
- ③ 学校名

①スクールビジョン（目指す学校の姿）について

北中学校の分校ではありますが、登校する生徒の実態は異なります。スクールビジョン（目指す学校の姿）については、生徒の実態に合わせた独自のものを設定したいと考えています。その際には、不登校児童生徒たちにもどのような学校なのかイメージしやすいものを設定したいと考えています。

【参考】

○鎌倉市立由比ガ浜中学校スクールビジョン

「自分らしく学び、自分らしく成長できる学校」

子どもたちが自分らしさを大切にしながら安心して学ぶことができるように、ありのままを受け入れ寄り添いながら、社会的自立と自己実現に向けて「自分で考えて行動し、他の人と協力しながら、よりよく生きること」ができる力を育み、「自分のなりたい姿」へ成長していくことを支援していきます。

○岐阜市立草潤中学校 学校経営方針

「ありのままの自分で学ぶ」

どのような心の状態であっても安心して居られる環境の中で、心身の安定を取り戻し、自己選択により自分らしく学び、新しい自分を見つけ歩む姿を目指す

※北中学校

「未来社会を創る人が育つ学校」

未来社会において、生徒たちが自己実現を図るためには、自分たちが生きていく社会の姿を自分たちでデザインし、具体を創り上げていく資質・能力を獲得する必要がある。

①スクールビジョン（目指す学校の姿）について

事務局が考える【目指す学校の姿】のポイント

- ①自分らしく安心して通える学校
- ②学びや体験を通じて成長できる学校
- ③自分の歩みで成長できる学校
- ④未来（将来）を発見できる学校
- ⑤いろいろな学びにチャレンジできる学校

これらを踏まえ、子どもたちにもわかりやすく、
釧路市学びの多様化学校がどのような学校なのか
イメージできるビジョンを決めたいと思っています。

②特別の教育課程の編成

特別の教育課程の編成とは

不登校児童生徒の実態に配慮し、教育課程の基準によらずに、各学校の実情に合わせて特別な教育課程を編成すること

②特別の教育課程の編成（他府県の例1 宮城県）

授業時数削減して、他の教科に補填を行った例

富谷市立富谷中学校 西成田分校（宮城県）

	各教科の授業時数									道徳の授業時数	業特別時の授業時数	の総合的な学習の授業時数	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語				
第1学年	105 (140)	105 (105)	140 (140)	105 (105)	35 (45)	35 (45)	105 (105)	70 (70)	140 (140)	35 (35)	35 (35)	105 (50)	1015 (1015)
第2学年	105 (140)	105 (105)	105 (105)	140 (140)	35 (35)	35 (35)	105 (105)	70 (70)	140 (140)	35 (35)	35 (35)	105 (70)	1015 (1015)
第3学年	105 (105)	105 (140)	140 (140)	140 (140)	35 (35)	35 (35)	105 (105)	35 (35)	140 (140)	35 (35)	35 (35)	105 (70)	1015 (1015)
合計	315 (385)	315 (350)	385 (385)	385 (385)	105 (115)	105 (115)	315 (315)	175 (175)	420 (420)	105 (105)	105 (105)	315 (190)	3045 (3045)

（ ）内は、標準授業時数

②特別の教育課程の編成（他府県の例2 神奈川県）

総授業時数の削減・教科の新設を行った例

鎌倉市立由比ガ浜中学校（神奈川県）

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	外国語	道徳	特活	総合	ULTLA	CTime	合計
由比ガ浜中学校	88	53	105	52	0	0	70	0	87	35	35	0	140	105	770
(参考) 標準1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50			1015
(参考) 標準2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70			1015
(参考) 標準3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70			1015

②特別の教育課程の編成（釧路市の編成 案）

総授業時数の削減・教科の新設

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	技術 家庭	外国 語	道徳	総合	特別 活動	新設 1	新設 2	合計
1年	100	95	120	85	20	20	60	40	115	0	0	0	120	75	850
	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	50	35			
2年	100	95	95	110	20	20	60	40	115	0	0	0	120	75	850
	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	70	35			
3年	75	120	120	110	20	20	60	20	110	0	0	0	120	75	850
	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	70	35			

②特別の教育課程の編成（釧路市の編成 案）

例 国語科の削減した教育内容の保障

新設教科1への教育内容振り分け（例 国語単元名）

	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・表現
中一			自分の脳を知っていますか 資料をもとに紹介文を書く 森には魔法使いがいる	構成を考えて話す 子どもの権利 言葉がつながく世界遺産
中二		新聞の投書を書く	夢を跳ぶ	いろいろな立場や考えを踏まえる
			SNSから自由になるため	
		持続可能な未来を創るために		紙の建築 随筆の味わい 二千五百年前からのメッセージ
			ガイアの知性	学ぶ力 豚 走れメロス

②特別の教育課程の編成（釧路市の編成 案）

授業時間の短縮と生徒への配慮等

生徒登校	9:00		
ホームルーム ウォームアップ	9:10	～	9:25
1	9:30	～	10:15
新設教科2	10:20	～	10:45
2	10:50	～	11:35
3	11:40	～	12:25
給食	12:25	～	12:55
清掃	12:55	～	13:10
昼休み	13:10	～	13:25
4	13:25	～	14:10
5	14:15	～	15:00
ホームルーム クールダウン	15:05	～	15:20
学びなおし 発展	15:20	～	15:50

③学校名について

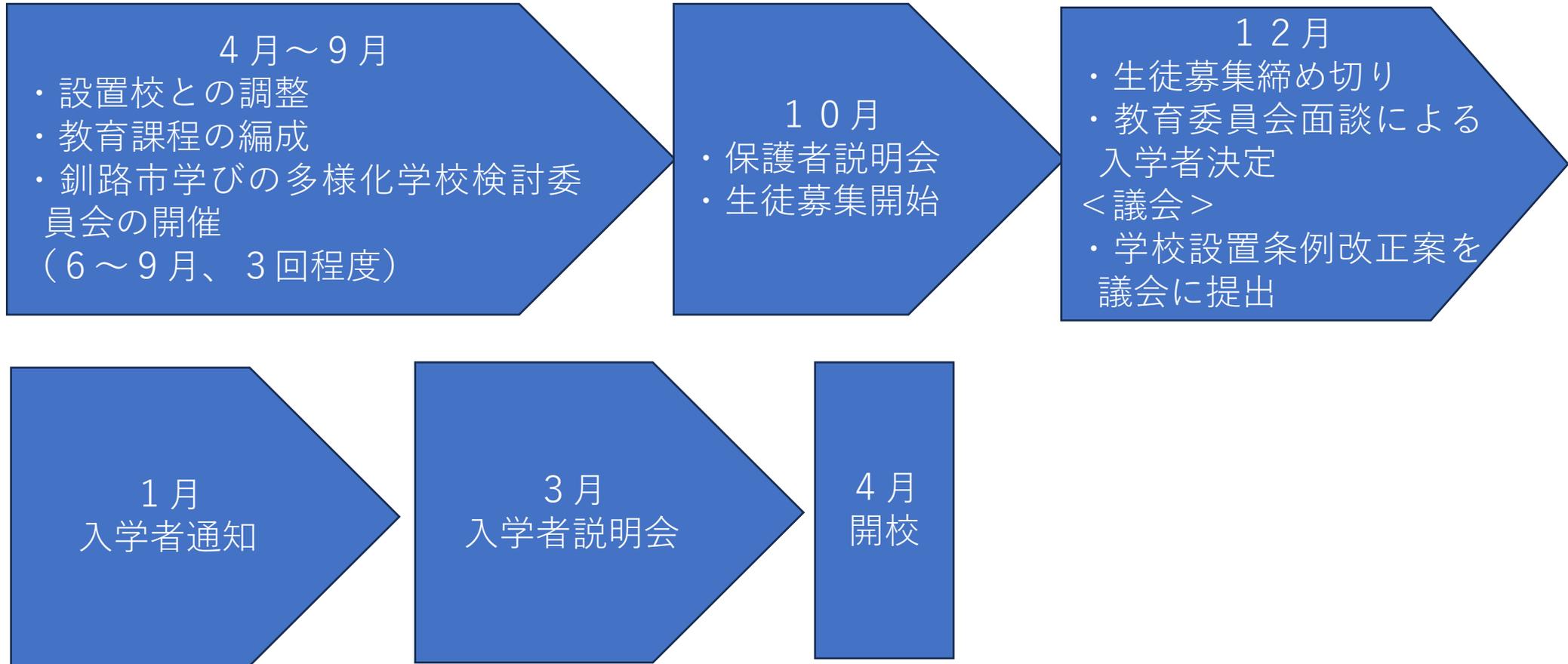
- ①本校の校名とは別に、独自の学校名をつけるパターン
例) 「由比ガ浜中学校」 (鎌倉市立御成中学校分校)
- ②本校の校名の後に、分校名をつけるパターン
例) 「宇美町立宇美南中学校 ハピネス分校」
- ③校名は分校とし、通称名をつけるパターン
例) 神戸市立湊翔楠中学校分校 通称名「みらいポート」

⇒釧路市の考え方

釧路市が設置予定の「分校型」では、本校の運営から一定の独立性を持った運営をすることができることから、より独立性を意識しできる①の「〇〇中学校」のパターンがふさわしいと考えています。また、登校する生徒にとってもより所属感を高めることができると考えます。スクールビジョン（目指す学校の姿）にもあった名称検討を進めていきたいと考えています。

釧路市が目指す学びの多様化学校
～今後の予定について～

開校までのスケジュール



結びに

釧路市の学びの多様化学校の検討の進め方

生徒自身が自分らしく自信を持って、ありのまま
で居られる学校を目指し、検討を進めていきま
す。